

漢文公式

- ・返読文字には常に「返り点」がついている。助詞・助動詞は平仮名で書き下せ。
- ・接続の語「因（よりテ）」「故（ゆゑニ）」「然（しかルニ）」
- ・「而」は「しかシテ」と読んで順接、「しかルニ」と読んで逆接。
- ・是以 ここヲもつテ こついうわけで
以是 これヲもつテ これによつて
- ・すなはチの同訓異字は「則・即・乃・便・輒」
- ・語順を変えるのが倒置形、強調する語を前に出す。
目的語（〜ヲ）・補語（〜ニ）を術語の前に出すときは、「之」を加える。
- ・対句は左右対称。文法構造・対応する語に着目。
- ・絶句・律詩の押韻は
五言詩―偶数句末尾（時々、第一句末尾も）
七言詩―第一句末尾+偶数句末尾
- ・否定の形は「不・弗」「非・匪」「無・莫」
「不・弗」は書き下すときは平仮名で。
- ・部分否定 否定語+副詞
(例) 不+副詞 「〜とは限らない」
「必ずシモ〜ズ」「常ニハ〜ズ」「俱ニハ〜ズ」「甚ダシクハ〜ズ」
* 否定の強調 「不敢」「敢ヘテ〜ズ（〜することはない）」
全部否定 副詞+否定語
(例) 副詞+不 「すべて〜ない」
- ・二重否定は、強い肯定の意味。 - (マイナス) × - (マイナス) = + (プラス)

- 1 -

- ・否定形は文脈によつて「禁止形」になる。
- ・禁止の形
「勿（毋・無・莫）」「〜スル（コト）（なカレ）
「〜してはいけない」の意
- ・使役の形（他に〜させるの形）
「使A（名詞）B（動詞）。「AヲシテB（セ）シム（AにBさせる）
名詞に「ヲシテ」をつけるを覚えておくこと。
「しむ」は未然形接続の助動詞。助動詞だから平仮名で書き下すこと。
「使・令・教・遣」は全部使役！
古文では、「す・さす・しむ」だけれど、漢文では「しむ」だけ。
- ・「命・教・説・召・請」などの動詞があるときは、使役の形。
下にある動詞に「シム」をつけて読む。
- ・受身の形（他から〜されるの形）
「見・被・為」。下から返つて「る・らル」と訓読。
古文法の「る・らる」を思い出せ！ 四段活用未然形+る
下動詞から返つて読む。「る・らる」は助動詞だから平仮名で書き下す。
サ変・下二段活用動詞未然形+らる
- ・受身の形
A為B所。 A Bの（スル）所ト為ル。 AはBに（よつて）〜される。
- ・疑問の形は、疑問詞+術語動詞（連体形）
疑問詞を用いる形は、文末が連体形で結ばれる。
「何ヲカ」（何をするのか）「何為レゾ なんすれぞ（どうして〜か）」
疑問の「何如」は「どのようか」
疑問・反語の「如何・奈何」は「どうしようか」
- ・疑問の終助詞は「乎・哉・耶・也」 文末に用いる
現代語の「どうして」にあたる疑問の副詞があれば、文末は「や」と読む。
「疑問」の副詞にあたる表現がなければ「か」と読む。

- 2 -

・**反語の形** 古文でも出題多いので要注意！

訳し方の基本は「どうして〜か、いや〜」
 豈＋「未然形」＋「んや」 豈二〜ンヤ
 安＋「未然形」＋「んや」 安クンゾ〜ンヤ
 何＋「未然形」＋「んや」 何ゾ〜ンヤ
 誰＋「未然形」＋「んや」 誰カ〜ンヤ
 如何ゾ＋「未然形」＋「んや」 如何ゾ〜ンヤ
 若何ゾ＋「未然形」＋「んや」 若何ゾ〜ンヤ
 奈何ゾ＋「未然形」＋「んや」 奈何ゾ〜ンヤ

・強調の反語は 疑問詞〜ン(ヤ)
 確認の反語は 〜(ニあら)ズヤ
 文末の訓読のしかたに注意しよう

・「也」は「なり・や・か」と読む助字。
 文中では提示、文末では疑問・反語・断定

・**詠嘆の形**

文頭に「ああ」・・・嗚呼・于嗟など
 文末に「かな」・・・哉・乎・也など
 覚えておきたい「不亦A乎」 亦タAズヤ なんとAではないか
 「豈不A哉」 豈Aズヤ なんとAではないか

・**限定の形**

限定の副詞(ただ〜だけ)
 たダ〜(ノミ)ー唯・惟・但・直・徒・只・特・祇
 ひとり〜(ノミ)ー独

・限定の終助詞は「耳・爾・已・而已・而已矣」(〜のみ)
 「〜ただだ」という限定の意味を表すが、「〜に他ならない」(〜なのだ)という
 強調の用法もある。

・**累加の形**

「非唯(独)〜、唯ダニ(独リ)〜ノミ非ズ(ただ〜だけでなく)

「何独〜」何ゾ独リ〜ノミナランヤ(どうしてただ〜だけであろうか、いや〜
 だけではない)

・**比較の形**

「A不如B」 AハBニ如かず (AはBに及ばない)
 「A莫如B」 AハBニ若クハ莫シ (Aの場合はBに及ばない)
 「A B於C」 AハCヨリB (AはCよりB)の三つ。

* 「形容詞・形容動詞」＋於≡比較(〜より)
 「動詞」＋於≡受身(〜る・らる)
 比較には「如・若」を用いる形と、前置詞の「於・于・乎」を用いる形がある。

・**選択の形**

「寧A、無B。」 寧ロA(ス)トモB(スルコト)無カレト「与(其)A、寧
 B。」(其ノ)A(セン)ヨリハ、寧ロB(セヨ・セン)
 いずれも「いっそ〜しよう〜したい」「いっそ〜すべきだ」と訳す。

・**抑揚の形**

A且(尚)B。況C(連体形・体言)乎。
 Aスラ且ツ(尚ホ)Bす。況ンヤCをや。
 (AでさえB。ましてCは当然だ)

・**願望の形**

願ハクハ〜(セン)。(セヨ)。どうか〜させてください。・・・自分の願望
 請フ〜(セン)。(セヨ)。どうか〜してください。・・・他者への願望

・**仮定の形**

「縦ヒ」は逆接。縦ヒ〜トモ たとえ(もしも)〜としても
 「如シ」は順接。如し〜ば もし〜(ならば)
 他に、「若・苟・即」など。

・**従属の形**は「A与B」 AハBト つまりwith

並列の形は「A与B」 AトBト つまりand
 「与」は必ず下から返って読み、平仮名で書き下す。